

# 来場者の声

## 2010年 東京日本語サミット

### ■第一部「パネリストの自国紹介・主張」において一番印象に残ったスピーチ

◆イラクのアリさんのスピーチです。もっと知識をつけて、(自分の)国を平和にしたいという勇気が、力強く心に響きました。

(女・中学2年・13才)

◆中国のイツケンさん。少数派だとしても正しいと思うことを通し抜く勇気はとても難しく、その勇気を出せることはすごいと思いました。

(女・中学3年・14才)

◆スリランカのサンジワニーさんです。戦争は恐ろしく怖いもので、勇気がなければ生きていけないということを知り、改めて戦争はいけないことだと思いました。「明日生きていることが幸せ」という言葉は本当に私の心に残りました。

(女・中学2年・13才)

◆エルサルバドルのナンシーさんです。「人を許すことで、心の平和が得られる」というスピーチです。とても勇気のある決断だと思いました。

(女・教師・29才)

◆シリアのマナールさんです。偏見は表面的な部分を次元にとらえることにより起こるのであり、それが人間相互の誤解や摩擦を生じさせるということを改めて感じました。文化の背景や物事の本質を理解することは、とても重要だと思いました。

(女・教師・27才)

◆ニッポン・オランダのヴィンセントさん。長崎の原爆体験者の方と働くことによって他人事だった歴史上の出来事

が身近になったことは、非常に大事だと思ったからです。  
(女・教師・52才)

◆スロバキアのみハルさん。相互理解ということ、実はとても難しいということ、率直に語ってくれました。

(男・アパート経営・62才)

◆ルーマニアのレナタさん。「偏見はなにも生み出さない」という意見を具体的な体験に基づいて話しており、印象に残りました。

(女・会社員・38才)

◆ポーランドのマルタさん。人を見た目で判断しないこと、相手を認めることが大切で、それが勇気への第一歩ということが印象に残りました。

(女・中学3年・14才)

◆イラクのアリさん。日本では想像もつかないような状況下で、どんな勇気を持って、何が自分に出来ることかということ、しっかり考え、強い意志が伝わってきました。

(女・大学3年・21才)

◆ルーマニアのレナタさんの「ステレオタイプをなくし、人々が互いに理解しあうことが平和への第一歩」という意見が心に残りました。私も小学生のとき、中国の現地校に通っていた際、「日本人だから、一緒にグループはダメ」などといきなり言われました。でも、その後その子たちとお互いについて話し合ったら仲良くなれました。やはり、話し合いなどから相手を理解することが大切だと思います。

(女・中学3年・14才)

The Japan Times 2010年7月18日(日)

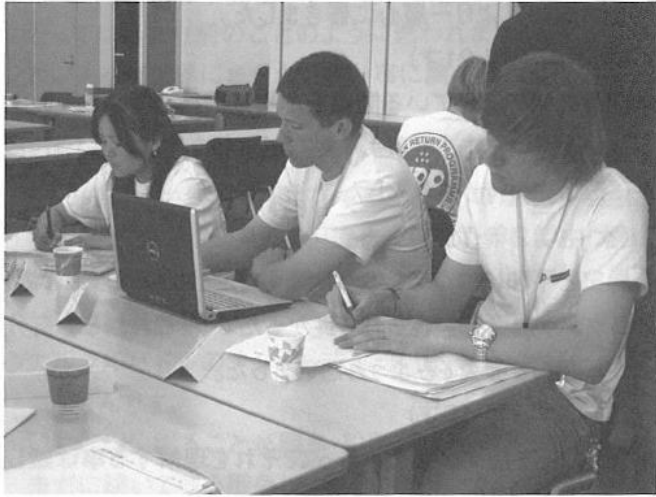


Students from 13 countries take part in a panel discussion in fluent Japanese on the themes of courage and peace during the Nihongo Summit in Tokyo, held July 12 at Nikkei Hall at the end of their 35-day stay in Japan. The exchange program was organized by the nonprofit group Japan Return Program and supported by the Foreign Ministry and others. YOSHIKI MIURA

## ■ジャパン・リターン・プログラム(JRP)に対するメッセージ

◆日本語という一つのことばで、世界の文化、習慣の違う人々が自分達の国や、お互いの国との関係、平和や勇気についてパネルディスカッションをしていることはすごいと思いました。そして、このような交流はとても大切だと思うので、これからもこの「日本語サミット」と言う企画を続けて欲しいと思います。

(女・中学2年・13才)



電通ワーキングセッションの様子

◆日本語でモノを考え、深く議論をし合い、他人の意見にも耳をかたむける外国のパネリストの姿勢には、平和や人材育成の大切さ以上の感動を与えられました。貴重な機会を有難うございました。

(女・会社員・38才)

◆全世界から日本語学習者を一同に集め、パネリスト達ではなく、私達日本人にとっても、他の国、自国の平和について考えられるいい機会となりました。これからも、このプログラムが続くよう願っています。

(女・教師・29才)

◆本日のサミットで私自身、国際理解、異文化理解に対して関心が深まり、多くの国の人から異なった意見を聞くことで、今まで自分が持っていた考え方を見直すことが出来たし、自分から異文化を受け入れて、その上で私の考えを知って下さいと伝えるのが正しい異文化理解だと思いました。これからも世界平和のために、こういった活動を継続していただきたいです。

(女・高校2年・16才)

◆最初の会長の挨拶にもあったように、もっとこの活動が日本中に発信され、周知されることを期待したいです。

(男・教師・36才)

◆こんなにも多くの人々が日本語を使って討論していることにとても感動しました。日本語にはどこか世界を動かす力があるのかもしれない。今回のスピーチやディスカッ

ションを通して人は皆同じ「平和」というゴールを目指していることが分かりました。日本語サミットはパネリストだけではなく全ての人に、とても大切なことを気づかせる良い機会だと思います。これからも、もっとたくさんの人の世界への架け橋となってください。

(女・中等3年・13才)

◆平和に慣れた、そして少し閉ざされがちな日本の若者たちに、少しでも今日のようなメッセージが届くよう、努力されることを今後とも期待しています。

(女・学習塾講師・54才)

◆色々な環境で育ち、様々な考え方や価値観をもつ人同士が、何を思っているのか知れたので、とても良い経験となった。私の価値観も変わった気がします。このサミットに参加してよかったし、これからも続けて欲しいです。

(女・中学2年・13才)



東京日本語サミットの様子

◆日本語で世界の人々とコミュニケーションする、少しでも日本語が世界に伝わり、より多くの日本人が世界の人々と対話できるように、このサミットを続けて欲しい。

(男・会社員・42才)

◆異文化交流は非常に大切なことだと思います。特に、若い日本人達にこういう経験をさせて、輪を広げていってください。日本の若者を入れる形にしてはどうでしょう。

(男・団体職員・59才)

◆こういう話が聞ける機会は今までなかったので良かったです。もっとたくさんの人がこの話を聞いて、平和について考えたら、何か変わることがあるかもしれないと思いました。

(女・高校2年・16才)